

2021年度卒業生を対象とした学修行動調査結果の概要

《調査の概要》

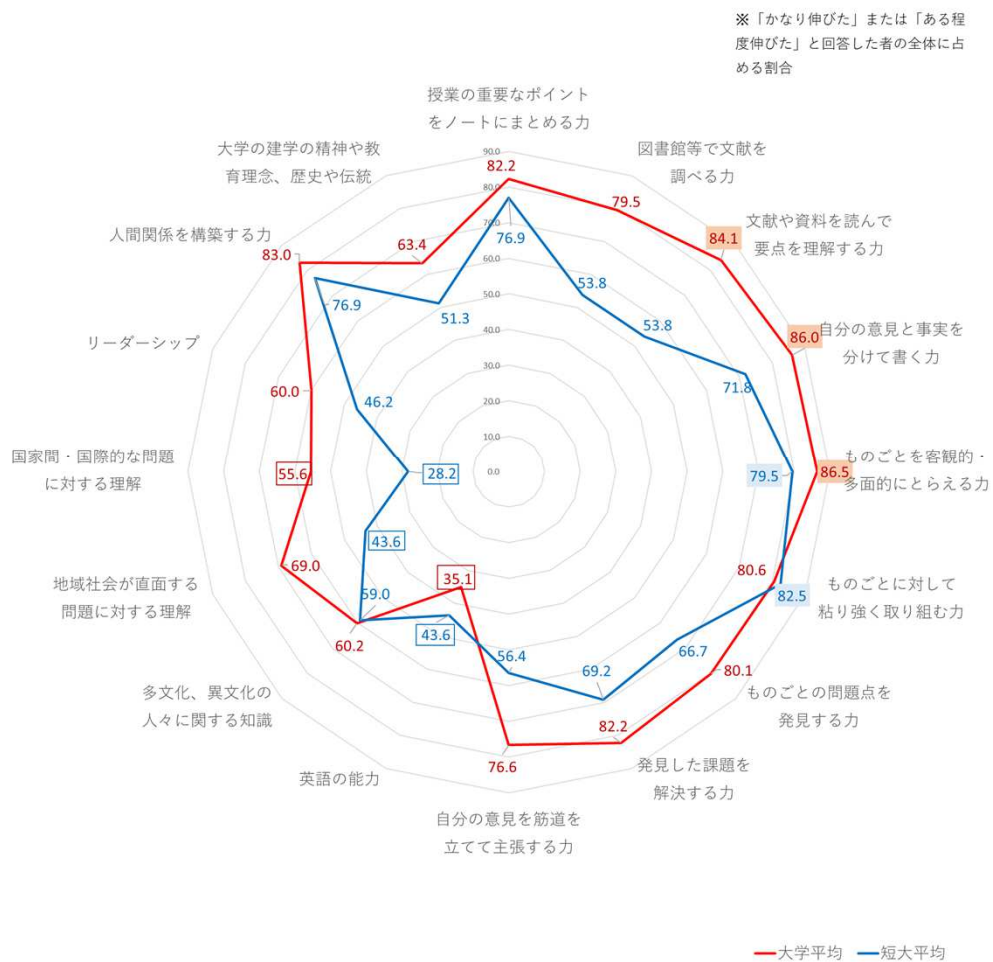
- 1 実施目的 本学学生を対象に毎年実施している「学修行動及びキャンパスライフ調査」の中から、2021年度卒業見込みの学生（大学4年生及び短大2年生）に係る、課程全体を通じた成長実感、本学の教育や学生生活に対する満足度などについて、集計・分析を行い、教育改革等に反映させるため。
- 2 実施日 2021年12月
- 3 実施形態 Webまたは調査票用紙での記名式回答
- 4 回答者数・回収率

学 科 名		学年	在籍者	回答者数	未回答者数	回収率	備考
大 学	言 語 文 化 学 科	4年	55	49	6	89.1%	
	生 活 心 理 学 科	4年	34	25	9	73.5%	
	地 域 マ ネ ジ メ ン ト 学 科	4年	39	33	6	84.6%	
	看 護 学 科	4年	77	76	1	98.7%	
	計	4年	205	183	22	89.3%	
短 大	健 康 栄 養 学 科	2年	20	19	1	95.0%	2年コース2年生
	こ ども 育 成 学 科	2年	23	21	2	91.3%	〃
	計	2年	43	40	3	93.0%	
合 計			248	223	25	89.9%	

1 学習習熟度

- ・学習習熟度に関して、16項目について入学後の状況を尋ねた。
- ・入学後に「かなり伸びた」または「ある程度伸びた」と回答した者を合わせた「伸びた」の全体に占める割合は、大学では、「ものごとを客観的・多面的にとらえる力」（86.5%）、「自分の意見と事実を分けて書く力」（86.0%）、「文献や資料を読んで要点を理解する力」（84.1%）が高く、「英語の能力」（35.1%）、「国家間・国際的な問題に対する理解」（55.6%）が低かった。
- ・短大では、「ものごとに対して粘り強く取り組む力」（82.5%）、「ものごとを客観的・多面的にとらえる力」（79.5%）が高く、「国家間・国際的な問題に対する理解」（28.2%）、「英語の能力」（43.6%）、「地域社会が直面する問題に対する理解」（43.6%）が低かった。

学習習熟度－入学後の伸び－



学習習熟度（入学後の伸び）

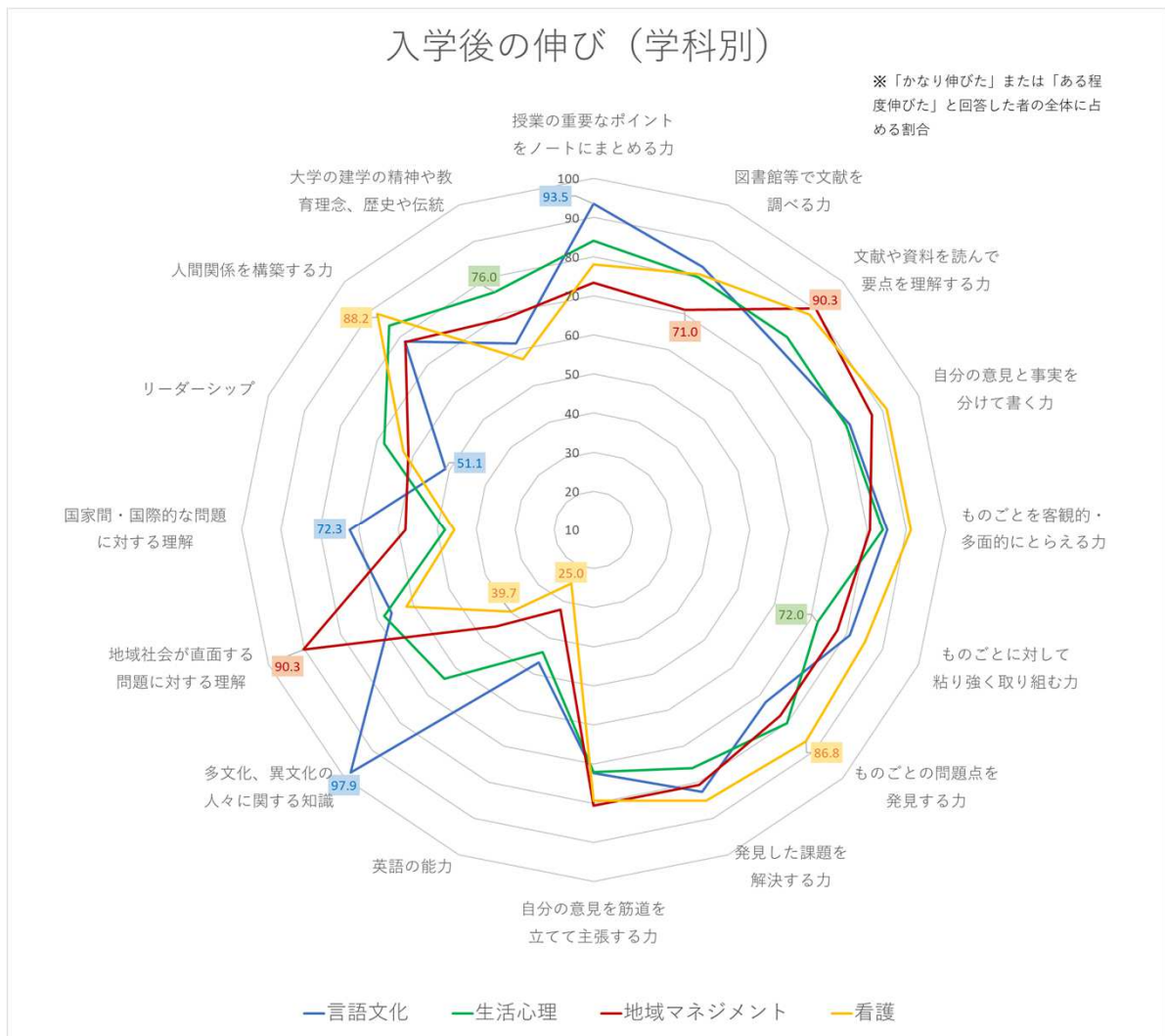
No	項目	大 学				短 大			合計	
		言語文化	生活心理	地域・環境	看護	大学平均	健康栄養	こども育成		短大平均
1	授業の重要なポイントをノートにまとめる力	93.5	84.0	73.3	77.9	82.2	83.3	71.4	76.9	81.3
2	図書館等で文献を調べる力	83.0	80.0	71.0	80.9	79.5	61.1	47.6	53.8	74.8
3	文献や資料を読んで要点を理解する力	76.6	80.0	90.3	88.1	84.1	66.7	42.9	53.8	78.5
4	自分の意見と事実を分けて書く力	80.9	80.0	87.1	91.2	86.0	83.3	61.9	71.8	83.3
5	ものごとを客観的・多面的にとらえる力	85.1	84.0	80.6	91.2	86.5	94.4	66.7	79.5	85.2
6	ものごとに対して粘り強く取り組む力	80.9	72.0	77.4	85.1	80.6	84.2	81.0	82.5	81.0
7	ものごとの問題点を発見する力	72.3	80.0	77.4	86.8	80.1	66.7	66.7	66.7	77.6
8	発見した課題を解決する力	82.6	76.0	80.6	85.1	82.2	77.8	61.9	69.2	79.8
9	自分の意見を筋道を立てて主張する力	72.3	72.0	80.6	79.4	76.6	72.2	42.9	56.4	72.9
10	英語の能力	46.8	44.0	32.3	25.0	35.1	38.9	47.6	43.6	36.7
11	多文化、異文化の人々に関する知識	97.9	64.0	45.2	39.7	60.2	55.6	61.9	59.0	60.0
12	地域社会が直面する問題に対する理解	65.9	68.0	90.3	61.8	69.0	44.4	42.9	43.6	64.3
13	国家間・国際的な問題に対する理解	72.3	48.0	58.1	45.6	55.6	44.4	14.3	28.2	50.5
14	リーダーシップ	51.1	68.0	61.3	62.7	60.0	50.0	42.9	46.2	57.4
15	人間関係を構築する力	78.3	84.0	78.1	88.2	83.0	83.3	71.4	76.9	81.9
16	大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統	61.7	76.0	68.8	57.4	63.4	55.6	47.6	51.3	61.1

○学科ごとの比較

入学後に「伸びた」の割合について、各学科で比較した。

(1) 大学

- ・言語文化学科では、他学科に比べて、学科の学びに関係が深い「多文化、異文化の人々に関する知識」、「国家間・国際的な問題に対する理解」のほか、「授業の重要なポイントをノートにまとめる力」も高く、「リーダーシップ」が低かった。
- ・生活心理学科では、「大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統」が高く、「ものごとに対して粘り強く取り組む力」が低かった。
- ・地域マネジメント学科では、学科の学びに関係が深い「地域社会が直面する問題に対する理解」のほか、「文献や資料を読んで要点を理解する力」が高く、「図書館等で文献を調べる力」が低かった。
- ・看護学科では、「ものごとの問題点を発見する力」、「人間関係を構築する力」が高く、「多文化・異文化の人々に関する知識」、「英語の能力」が低かった。

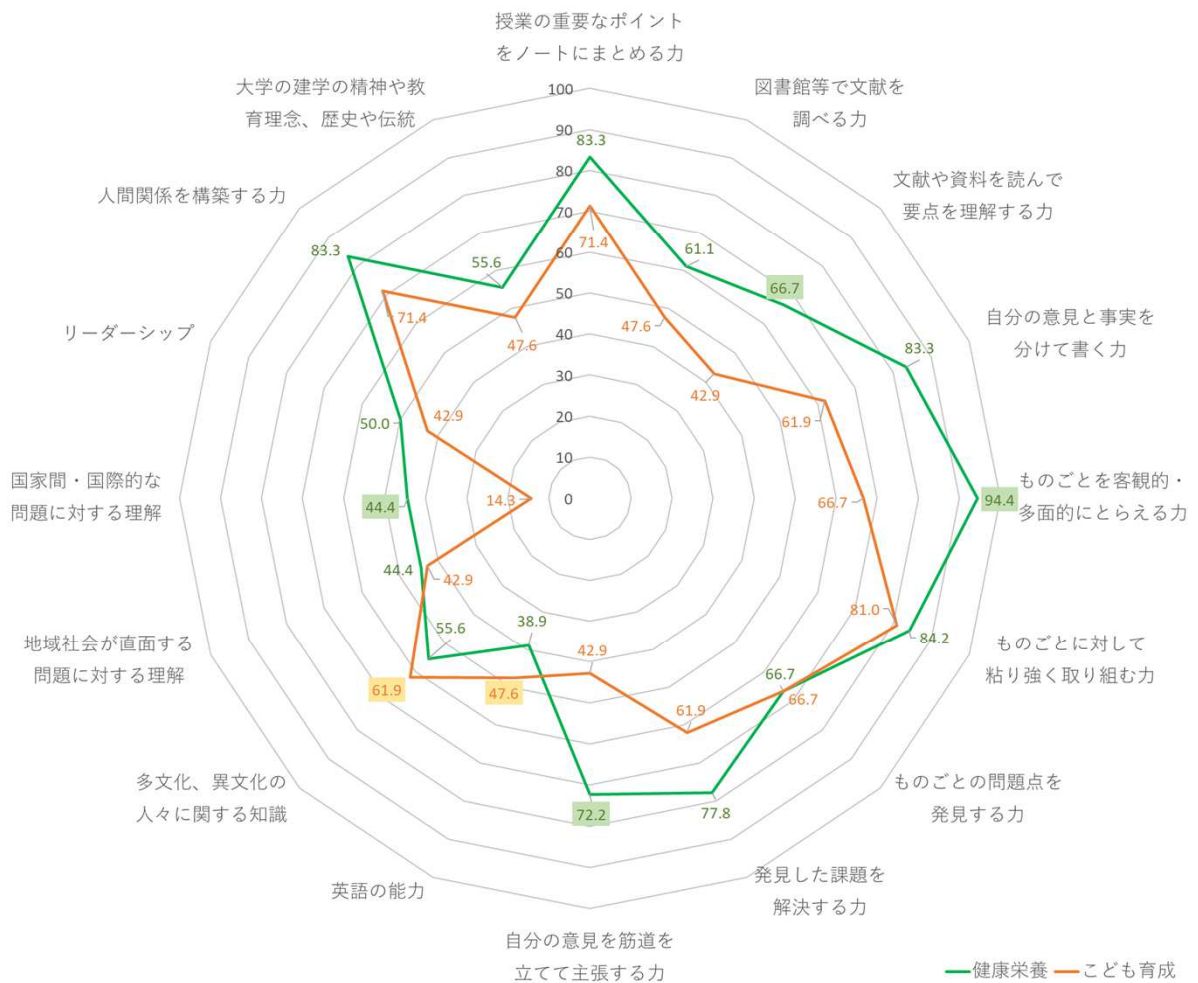


(2) 短期大学

- ・「伸びた」割合を両学科を比較すると、健康栄養学科では、「国家間・国際的な問題に対する理解」、「自分の意見を筋道を立てて主張する力」、「ものごとを客観的・多面的にとらえる力」、「文献や資料を読んで要点を理解する力」が高かった。
- ・「英語の能力」、「多文化、異文化の人々に関する知識」については、こども育成学科が健康栄養学科を上回った。

※「かなり伸びた」または「ある程度伸びた」と回答した者の全体に占める割合

入学後の伸び (学科別)

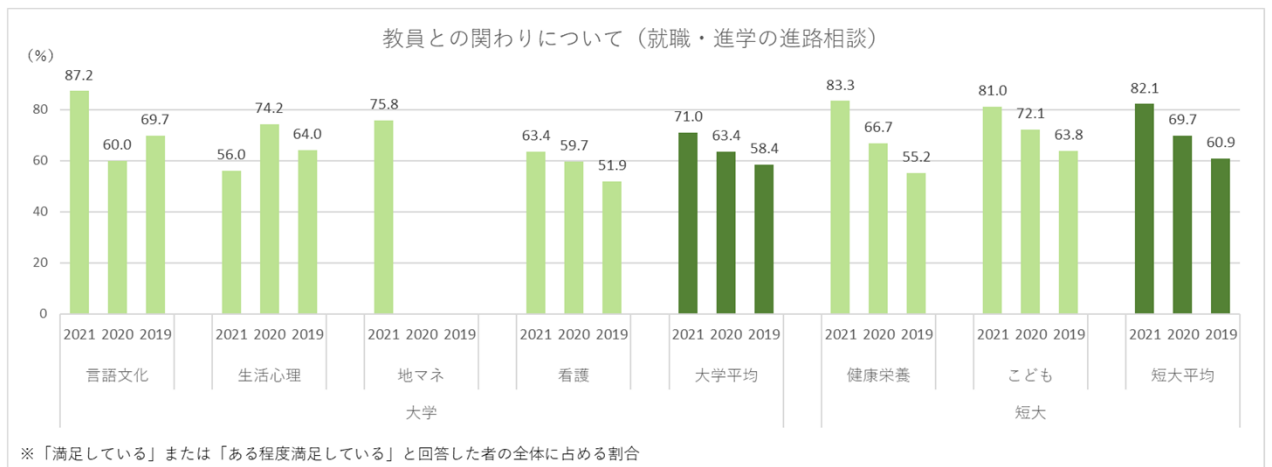
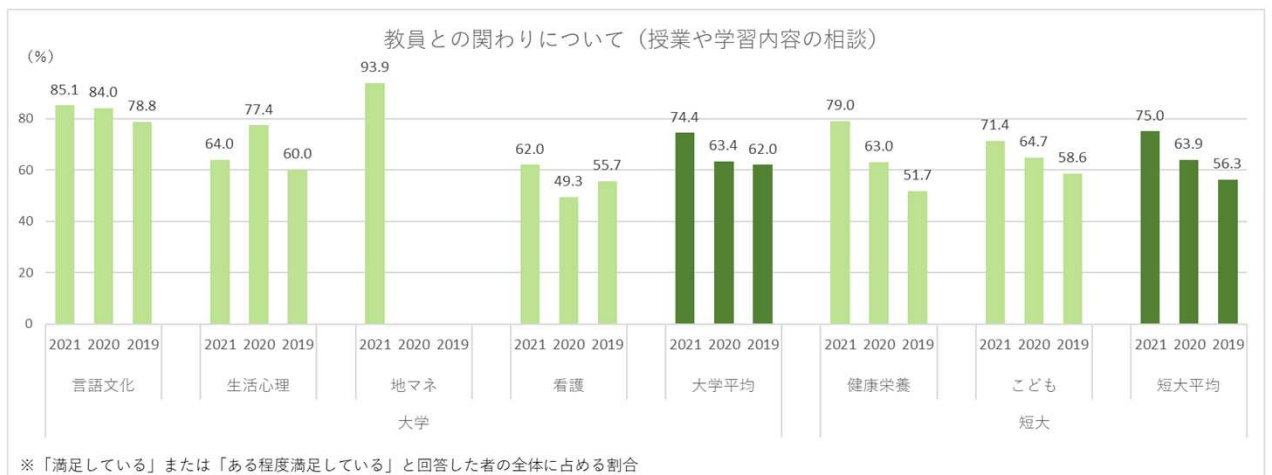


2 大学生活等についての満足度

教員との関わり、大学生活、本学の教育全般についての満足度を尋ねた。

(1) 教員の関わりについての満足度

- ・教員の関わり授業や学習内容の相談では、前年度に比べて、大学では11.0ポイントの増の74.4%、短大では11.1ポイントの増の75.0%となり、いずれも2年連続の増加となった。
- ・就職・進学の進路相談では、前年度に比べて、大学で7.6ポイントの増の71.0%、短大で12.4ポイントの増の82.1%となり、いずれも2年連続の増加となった。



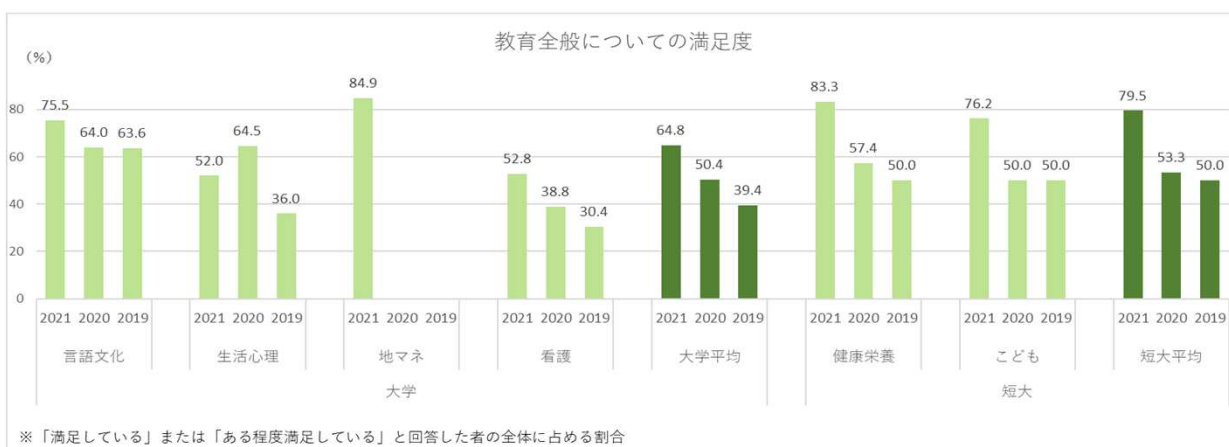
(2) 大学生活についての満足度

- ・大学生活についての満足度については、前年度に比べて、大学では11.9ポイント増の70.4%、短大では27.7ポイントの87.5%と大幅増となり、いずれも2年連続の増加となった。



(3) 教育全般についての満足度

- ・教育全般の満足度については、大学で14.4ポイントの増の64.8%、短大で26.2ポイント増の79.5%と大幅増となり、いずれも2年連続の増加となった。



※参考 大学生活を過ごす中での実感等

- ・「大学教員と交流があると感じている」割合は、前年度に比べて、大学で12.1ポイント増の77.1%、短大で15.9ポイント増の79.0%となった。
- ・「大学の一員であると感じている」割合は、大学で15.3ポイント増の66.5%、短大で7.5ポイント増の69.2%となった。
- ・「居心地がよいと感じている」割合は、大学10.4ポイント増の59.2%、短大で5.8ポイント増の57.5%となった。
- ・「愛着心がある」割合は大学で15.8ポイント増の60.1%、短大で30.3ポイント増の67.4%となった。
- ・以上のとおり、4項目とも、大学、短大で前年度を上回り、2年連続の増加となった。

